



久々の West End



先月は久しぶりに West End の Playhouse Theatre で働かせていただきました。今回の演目はミュージカル “Women on the Verge of a Nervous Breakdown” 『神経衰弱ぎりぎりの女たち』です。

『オール アバウト マイ マザー』の映画で有名なスペインの映画監督ペドロ・アルモドバルがヴェネツィア国際映画祭で脚本賞を受賞した作品のミュージカル版です。このミュージカルの演出家はバートレット・シェアさんで、照明デザイナーはイギリス照明家協会会長、ピーター・マンフォードさんです。

舞台は、スペインのマドリッドの町と、主人公の女性のアパート(半2階建てで、円を描くような形のお部屋)の中をイメージして作られています。そのセットの鉄骨組みを舞台上に搬入する前に、私たちはステージ上のサスバトンに、正確な位置と高さに仮設のサスバトンを吊っていきます。これは円形の壁に合わせて、照明の吊り位置を作るためです。その持ち込みの仮設サスバトンには、もうすでにどこになんの照明を吊ればよいかの印がつけられています。電源ケーブルも信号ケーブルも、適切な長さと一緒に束ねられ、どこの仮設サスのどの位置に行くかも、すでにテープで記入されていました。

このプロダクションの照明チーフ(イアン・モルズ、写真中央)に聞いたところ、これらすべての下準備は、数週間前から White Light (イギリス大手の照明機材会社)で行っていたそうです。White Light の実験倉庫内で、この劇場のセッティングとほぼ同じ物をまねて作り、そこに実際照明を吊って、すべての機材を下準備し、すべてにマーキングをしたそうです。その場で、事前に卓に打ち込むことはせず、パッチまでやられたそうですが、演目とスケジュールによっては、事前打ち込みをされてくることもあるそうです。

吊り込んだ照明は、Clay Parky Alpha profile 1200 (フロントサイド、トップ) × 20 台、Alpha wash 700 (トップ & バック) × 12 台、LED Source 4 (地明かりと、スペシャル用) × 40 台程、LED Pars expolite × 10 台 (トップ)、ColorBlaze (ホリ幕用とバンドのトップライト用) × 16 台、その他は S4 とフラッドライトで、ピンスポは 2 台です。照明キューは全部で約 470 キューです。

映画版でも、シーンの移り変わりがとても激しく、鮮やかな色彩をスクリーン上に映し出していた作品だけあって、このミュージカル版でも、かなり鮮やかな色の照明が使われていました。LED Source 4 はそういった面で、大活躍していま

た。しかし ColorBlaze のフェードがスムーズではなかったのが、心残りです。フェードカーブを卓で調整していれば、ぎこちないフェードにならずに済んだのかもしれませんが。

この照明仕込みで一番大変だったことは、照明吊りがすべて終わった後、そしてセットがすべて出来上がった後に、4本の仮設サスバトンの高さを約 2m 高く吊り上げなければならなかったことです。セットが予定よりも高く出来上がってしまったためか、単に計算ミスか、あえて突っ込んで聞きませんでした。この修正は 4 時間スケジュールを押して行われました。沢山のムービングがすでに吊ってある重い仮設バトンを天井からロープ 3 本で人々が力づくで持ち上げている間に、チーフがスコープの上で仮設バトン吊るし用のスチールワイヤーを 1 本ずつ、グリップルで短くしていく、気の遠くなるような、そして危険な作業でした。え? モーターでやらないの?! とても原始的と思いました。チーフは、口だけご達者なプロダクションマネージャーに責められ、詰められながらも、最後まで冷静に対処していて、とても尊敬できる方だと思いました。日本でよくお仕事をされているイアン チーフ、日本でお世話になった照明の皆様にごようしくお伝えくださいと言っておられました。

